

## 大凶作

一面に黄金色に色づいた稻田に一陣の秋風が吹き渡ると、稻穂が波打ち微妙な色模様の黄金の波となつてサラサラと音が聞こえてくる。昔から日本人の心の奥深いところで触れる秋の風物詩の黄金色に、今年は稻穂が実らず頭をたらさない「青立ちで色づかない」不モチ病でまつ黒「青刈りをした」と異常な色合いで塗られた景色が目立つてきた。

冷夏と長雨、台風の襲来で心配されていた今年の稻作は元月十五日現在の作況指数は著しい不良で「戦後最悪の八十」との農水省の発表で事実上の凶作宣言となつた。最終的には最悪の八百万トン台に落ちこむと予想されている。三年続きの大豊作でコメ余りの始まりとなつた頃の千四百万トンの半分、終戦直後のあの食糧難の時代でも維持された九百万トン台という数字と比べれば、消費量が減つたとはいえ、いかに大凶作かがわかる。

今年の夏は地球をとり巻く偏西風の強い

流れが例年になく大きく蛇行して、長い期間にわたつて同じような位置に止まつて冷夏を演出してしまつた。前線は日本列島の南岸からなかなか離れず、オホーツク海高気圧が冷風扇のごとく北日本へ冷気を送り込んだ。とりわけイネが開花する八月上旬を中心には低温が続となり終わりのない梅雨の長雨に秋雨が続き、太陽が顔を出さない日照不足に陥つた。

追い討ちをかけたのが、いつもの年なら台風を日本に寄せつづけない役割の夏の太平洋高気圧が弱く次々と上陸を許してしまつた。上陸数での最多記録タイの六つの台風の襲来という、トリプルパンチが列島をまんべんなく襲つた。

東北地方は昭和五十年以来、以前の一倍以上の頻度で十六年間に八回の冷害に見舞われている。地球規模の空気の流れの微妙なズレによる気象冷害のみならず減反政策などによる「構造冷害」も見え隠れしているようだ。（村松 照男）